



平成 29 年 11 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社アプリックス
代表者名 代表取締役 兼 取締役社長 長 橋 賢 吾
(コード：3727、東証マザーズ)
問合せ先 経 営 管 理 部 部 長 倉 林 聡 子
(TEL. 050-3786-1715)

IoT ソリューション事業における新事業ビジョンの策定に関するお知らせ

当社は、本日開催した当社取締役会において、IoTソリューション事業における新事業ビジョンの策定について決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

当社は、低消費電力を大きな特長とする近距離無線通信技術である Bluetooth Low Energy (BLE) に対応した IoT モジュールを介し浄水器等の水資源に係るセンサとクラウドを繋げる技術をはじめ、Amazon Alexa などの AI 及び音声認識技術を基にしたスマート・スピーカーと家電等を繋げる技術、及びモビリティ・システムのための各種センサとクラウドを繋げる技術等に係る製品とソリューションを提供してまいりました。

上記製品及びソリューションは、当社が創業以来展開してきた「組み込み」事業、及び当該事業に係る技術と経験知をその根幹とするものですが、IoT/CPS (※1) を取り巻く市場環境や技術動向は目まぐるしく変化してきていることもあり、当社 IoT ソリューション事業の更なる成長を実現していくためには、当社の立ち位置、並びに現在市場から求められている技術及びサービス等をよりの確に把握し、広範に対応出来るようにすることが必要であり、そのための新たな事業ビジョンを策定することが必要不可欠であるとの判断に至りました。

内閣府策定の「第5期科学技術基本計画 (※2)」では、サイバー空間とフィジカル空間 (現実世界) が高度に融合した「超スマート社会」を未来の姿とし、その実現に向けた一連の取り組みを「Society 5.0」と総称しています。超スマート社会とは、「必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、いつ様な時だけに提供でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らすことのできる社会」であり、人々に豊かさをもたらすことができる社会であると期待されています。超スマート社会を実現するためには、複数のシステムが連携協調する共通的な社会資本等に係るプラットフォームの構築が必要とされており、それを支える基盤技術として、IoT システム構築、AI、サイバーセキュリティ及びビッグデータ解析等が挙げられていますが、当社が培ってまいりました技術力 (コアコンピタンス) は、この「超スマート社会」実現の一翼を担うものであると自負しております。

この考えに基づき、当社の役割を「まだ繋がっていないモノ・コトを繋げるコネクタ」とすると再認識すると共に、同じ意味を表す「Connecting the Unconnected」をスローガンとして定めることにいたしました。

このスローガンを踏まえ、今後、より多くの市場ニーズ及び局面に対応した製品及びサービスを提供していくことを可能にするためにも、これまで以上に「広範な技術分野への対応等」、販売と取り扱いを容易にする「応用分野毎のサービス等のパッケージ化」、及び「販路拡大」の三点がまず第一段階の施策として必要である、と考えております。

また、まだ繋がっていないデバイスとクラウド等を繋ぐことのみならず、デバイスとデバイス、サービスとサービス、システムとシステム、プラットフォームとプラットフォーム、及びこれら同士の連携 (=繋がっていること) の実現に寄与していくと共に、政府が定める「IoT・AI・ロボット・ビッグデータ」といった

共通基盤技術と既存の産業コア技術との緊密なる連携の流れにも参画し、これらの「繋げる」諸活動によって生み出される新たな技術、知見等を以て当社サービスをも拡充していくという事業ビジョンを策定し邁進していくことで、当社の中長期的な業績向上及び企業価値の向上が実現できるものと考えております。

なお、新事業ビジョン「Connecting the Unconnected」の概要につきましては、添付資料「アプリックス新事業ビジョン」をご参照ください。

※1：CPS（JEITA）

CPSとは、実世界（フィジカル空間）にある多様なデータをセンサーネットワーク等で収集し、サイバー空間で大規模データ処理技術等を駆使して分析／知識化を行い、そこで創出した情報／価値によって、産業の活性化や社会問題の解決を図っていくものです。

<http://www.jeita.or.jp/cps/about/>

※2：科学技術基本計画（内閣府）

平成7年に制定された「科学技術基本法」に基づき、政府が策定した科学技術の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画です。

http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/kihon/main5_a4.htm

以上

新事業ビジョン

株式会社アプリックス

平成29年11月9日



CONNECTING THE UNCONNECTED

「みんなをつなげる」ことに貢献する企業(東証マザーズ:3727)
新たな付加価値の創造と社会資本整備事業への参画



アプリックスは 「まだつながっていないモノ・コトをつなげる」 コネクタです。

アプリックスが有する

1980年代～: メディアのインフラ(CD/DVD書き込みソフトウェア、オーサリングソフトウェア)

1990年代～: ネットワークのインフラ(家庭用ゲーム機のインターネット対応、白物家電及びカーナビ組込み用ブラウザ)

2000年代～: 制御のインフラ(携帯電話及び情報機器向け組込み用Java実行環境)

2010年代～: M2M/IoTのインフラ(ビーコン及び関連アプリ、BLE(Bluetooth Low Energy)技術、IoTワンストップソリューション)

という経験と実績を基に、IoT/GPS・AI・Robot・Big Dataを端緒とするこれからのパラダイムチェンジの時代に適した次世代インフラの構築・開発と運用に貢献してまいります。



共通基盤技術 × 産業コア技術 × データ
IoT, AI, Robot Big Data



水
空気
土
・
・



第五期科学技術基本計画における四つの重点項目とアプリックスの取り組みの一部

①移動する(ヒトの移動・モノの移動)

モビリティシステムのための各種センサとクラウドを繋げる技術の提供

②生み出す・手に入れる(スマートサプライチェーン)

様々な接点から宅内やサービス時点のリアルデータを集約しAIで分析することで顧客のニーズを先読みし新たなサービス・製品に繋げるコントロールタワーの実現

Amazon Alexaをはじめとするスマート・スピーカーと家電等を繋げる技術の提供

③健康を維持する・生涯活躍する(健康、医療、介護)

見守り支援、移動支援のための各種センサとクラウドを繋げる技術の提供

浄水器等の水資源に係るセンサとクラウドを繋げる技術の提供

④暮らす(「新たな街」づくり、シェアリング、FinTech)

- ・ IoT社会を支える通信規格の多様化

BLEからWi-Fi、3G～5G、LPWA、高速PLCなどへ対応する通信方式を拡充

- ・ E-Tech(電力インフラのビッグデータ、IoT、AI活用)

- ・ センシング

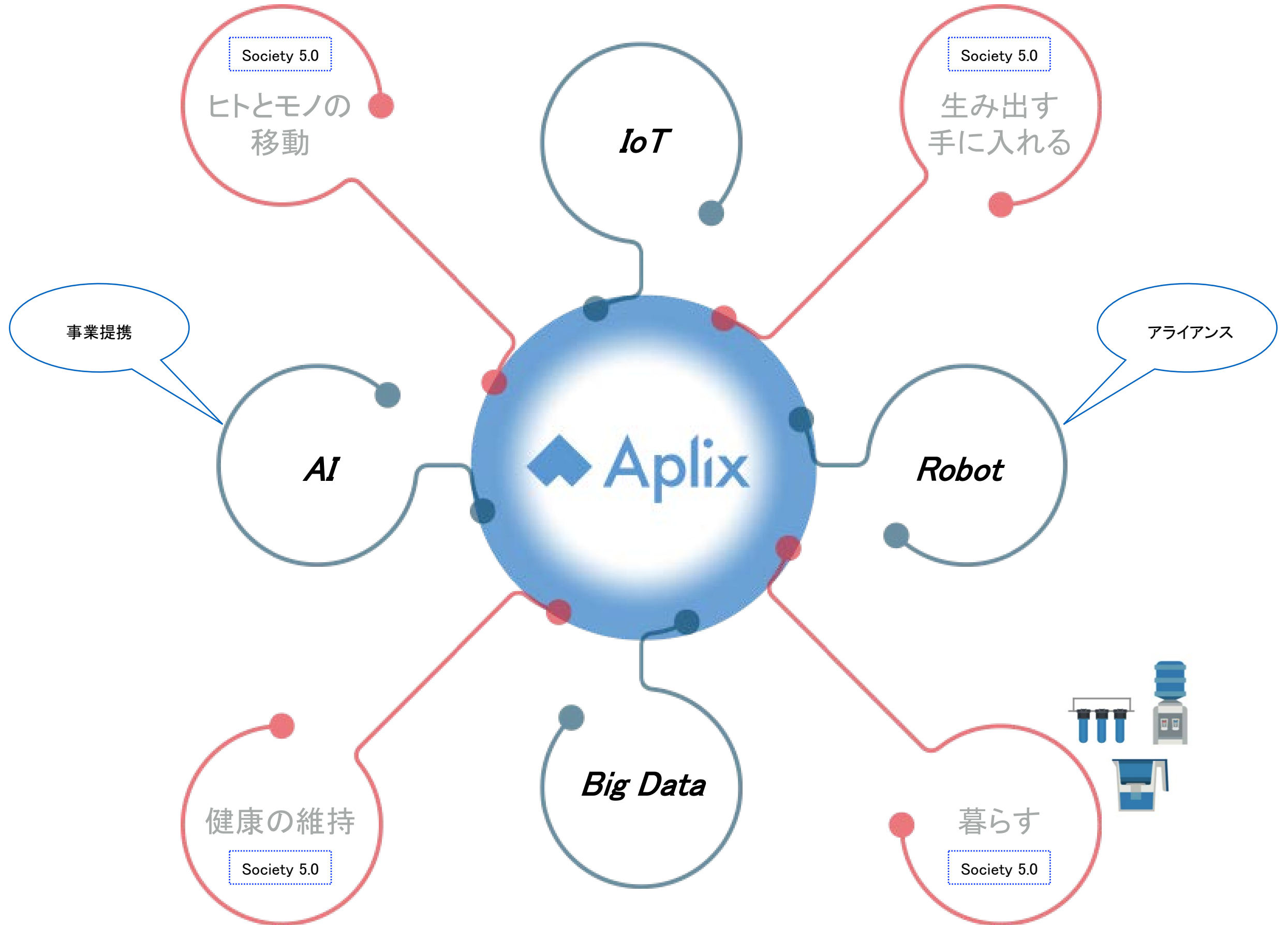
固定IoTとクラウドを繋げる技術の提供

社会資本インフラの計測等に係るセンサ及びドローンとクラウドを繋げる技術の提供

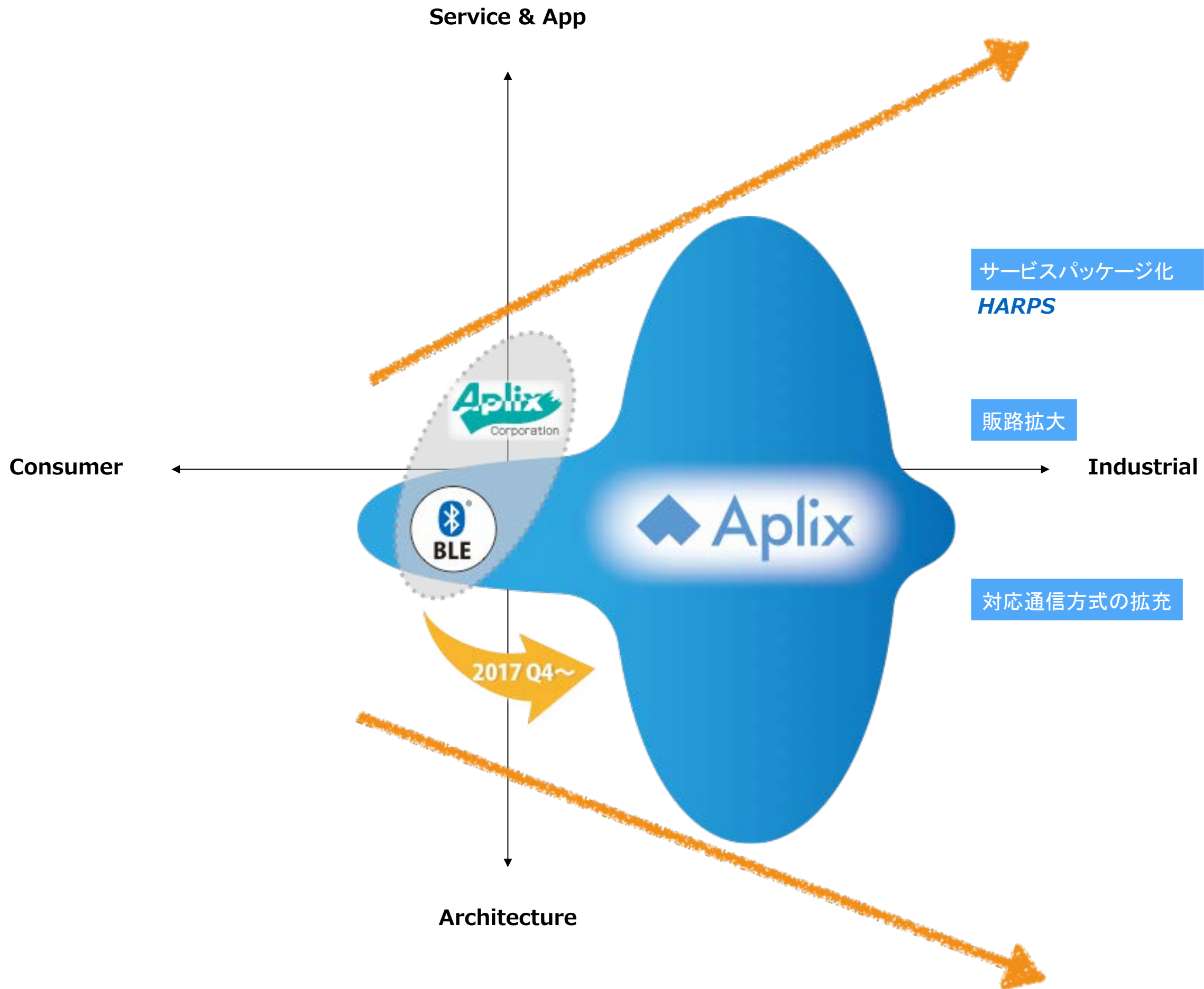
※内閣府第五期科学技術基本計画(平成28年～32年)=Society 5.0

※<http://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/index5.html>





※Society 5.0: 内閣府第五期科学技術基本計画



アプリックスの主な守備範囲

